

梅雨明けが待ち遠しい今日この頃ですが、皆様いかがお過ごしでしょうか？
蒸し暑く、体調を崩しやすい時期ですので、体調管理に気を付けましょう。



地域医療実習をご担当頂いた先生からのお手紙

地域医療実習の感想

ひがしきわ整形外科クリニック
藤井 謙三



当院は山口大学医学部のある宇部市に立地しており平成25年度より開始された地域医療実習に関わらせて頂いております。地域のクリニックの仕事を始めてからは若い先生や学生さんと話す機会も少なくなり年に1回ですが楽しみにしております。大学の教育カリキュラムも自分のころとは大きく変わっているようです。CBTという試験に合格され大学でポリクリ実習も終了され昔で言えば研修医1年目というイメージを持つ学生さんが来られます。卒業後のことも今の学生さんは自分が研修する病院の手術症例数や、その後の研修など、少なくとも3年後のことまでは考えているようです。私は宇部市出身ですので山口大学の医局に入局するという所までしか考えておりませんでした。入局後の研修病院も当時は恒例のあみだクジで決まりましたが何の疑問も持ちませんでした。大学院卒業後も色々な病院に行きましたが、この仕組みで地域医療が成り立っていると理解しておりました。実習の事前説明会では現在県内の若手医師が減少している状況を説明され地域医療実習で山口県に残る魅力を教えてくださいと言われました。ホームページなどで色々な情報が手に入る県外出身の学生さんに言えるのは、クラブの新生歓迎コンパでよく言われる縦横のつながりということでしょうか？実際、救急や病棟など休日や夜中でも他科のことでクラブの先輩後輩、同級生には色々助けて頂いたり、他の病院でも直接の電話で受けて入れて頂いたり、患者さんにとっては最良の医療に繋がったことも多くありました。このような大学生生活6年間のクラブ活動や遊びでしか築くことの出来ない人間関係という財産が一つの魅力ではないかと思えます。今後も微力ながら学生の教育に関われたらと考えております。

中高生を対象とした職業体験イベント in 下松

6月17日に「ほしらんどくだまつ」で、「**中学生・高校生を対象とした医師の職業体験**」が開催されました。このイベントは昨年、山口県医学会総会100回を記念して始めて行われましたが、非常に好評で反響が大きかったことから、今年も101回総会とあわせて催されることになりました。当日は県内の様々な地域から抽選で選ばれた40人の中高生が集まり、医学教育学が中心となって徳山中央病院の研修医にも協力頂き、指導にあたりました。体験するのは、心肺蘇生、縫合・結紮、血圧測定、採血の4つで、グループになって全項目をローテーションしました。皆、最初は慣れない手つきで戸惑っているようでしたが、すぐにコツをつかみ、積極的にリトライをしていました。生徒の皆さんはこれから進学や受験勉強など大変だと思いますが、今回の体験が進路選択の一助となり、将来の山口県の医療を担う人材育成に寄与できればと思います。



医療環境論のグループワーク発表会を行いました。

6月15日に、医療環境論のグループワーク発表会を行いました。発表会の2週間前に4つのグループ課題(①人工知能(AI)時代の医療のあり方とは、②医学部生が提言する、医療者の働き方改革とは、③震災に備えた医療体制をいかに整備するか、④医療保険制度は今後どうあるべきか)が提示され、各グループ課題を4~5班毎に割り振り、各班でグループワークを行いました。グループワークでは、まずグループ課題に関するテーマを決め、テーマの現状分析・将来予測、課題の抽出、コンセプトの決定、提言あるいは計画案の作成という流れで討論を重ね、発表資料を作成しました。各班とも、テーマについて十分調べ、具体性のあるオリジナル企画を提案でき、スムーズに発表できたと思います。

医療環境論は、医学科と保健学科が合同で行う唯一の授業ですが、今回の経験を将来の医療現場での多職種連携に活かしてほしいと思います。



ご意見・ご要望等につきましては、医学教育センターへ
お願いします。 TEL: 0836-85-3747

E-mail: mec01@yamaguchi-u.ac.jp